



六樹園
飯本著

江蘇抽語

卷四

13
2893
4



へ 13
2893
4

近江縣物語卷之四

ふくろのうを

わに多衰丸とり盗人の鏡山のわたり陣屋とすけ
りぐりよハ釘ぬきまけり堅固よめを守りぬ
此陣めてハ擄とせむ女をとりては置て身のあつを
出さん者よハ賣りけりやむきさき死せりしれをぬびの
すめりわたりハがまけりて人もとりぬれやす川
ほとりハがのれ小屋つりてぬびは常なるあま人のこ
あつてがのれつら女をとりては置て身のあつを
これとてはけりあまのこをぬびは常なるあま人のこ
しとてはけりあまのこをぬびは常なるあま人のこ

解

陽
書

昭和九年七月三日

近江縣物語

人ぐらひうけてゐるやうに置ていぼくと
おぼえん人くハ身のありの錢をきてつくのひもす
えち返一つこまわすづ一何々の國のわきびと甚
うれて礼をたりたれを老若男女つとひきておのく錢
いけて妻子とひまつれてもゆらぬおとそ三日をりの
ほどんやす川を賣つてつる女を六百人をりおほ
かへ皆賣つてつるのとをゆえ一あるよつ川をりも
て買とんしり事やき女四五人を残りる多裏丸のひ
けら此女をながく養ひ置おはほくの采とくひ
費しやんさりとそつらまてんよ軍令と破るは
いうせどおんとりと一人のぬびびと云らるハかる者とい

錢よえてつれ帰りのきとんが今思ひよりハ兵糧
とたくまの袋どものじあきつがのまのの中かの女を
一人づつうちこめなき顔たちを見せば賣つていぼえ
いうたといをがよいをれりさうんよ美悪の沙汰
及ぶ買とりてゆくべれを明日より此きつてよ定む
べしとて議定あつるあま梅丸ハ都をとめて石山
あつりに来りるがぬん人よの女をうとひきけらうと
聞て菌生もとて其中にありやせん西念法師をば
宿りよとめてた一人やせ川をわいてを来る釘ねき
乃中に入見あよ吾よりうれよ来りて買りしめんと
り者二人づぐすりのつらをはけてえれ一人ハ常人あり

江に果物言巻四

近江賊鏡山よ
ありりあり
とて
女とやを川へ
つれひて
成よとて
賣りしは不



かれ一定菌生と買とらんとして来はるるべし。彼は
 おてゆうれいかをばいかにせんいらもきて我引つしてうらむを
 と思ひのりる。常人も又梅丸と見つけて彼をたの望有
 て女をかちんとす。あやと不審く思ひり。いとどたぐひは
 あらびがほつりて詞とぞたまたま。もるるにむらへて座
 志のり。あつる。奥がぬより犬きかる。袋と荷ひ出てさぐ
 置つ心えぬ事ふし。守りたれをあき入は似せも。ぬひびと
 云る。ハ賣つてらん。ありのか。袋の中はこちて置り。各
 めよつきたらん。と。ゆりてゆくべし。常人も梅丸も。おど
 心は思ひり。袋の中。菌生はあらず。いり。あゆりても詮
 なく。えん。と。買え。たれば。さ。び。逢見んで。が。り。も。あ。ら。ず。

宿世の契り。浅くす。買りたる袋の中に。菌生が
 ぞんもあらず。びとんか。よ。あ。つ。り。あ。て。見。ん。と。思。ひ。て。價
 ば。と。を。ま。の。よ。ま。は。ん。の。え。び。は。ゆ。を。て。ひ。さ。た。れ。の。價。も
 ち。と。か。り。し。り。ハ。袋。の。中。は。こ。ち。置。つ。れ。價。は。甲。己。の
 別。り。あ。ね。く。各。袋。ひ。と。り。あ。て。錢。十。貫。文。は。賣。り。は。改。え。と。り。
 常。人。が。傍。よ。お。る。男。つ。い。ち。あ。て。お。の。れ。は。あ。や。れ。袋。を。か。ひ
 と。ん。と。て。錢。を。お。し。て。は。て。袋。の。口。を。り。あ。て。は。あ。け。く。
 あ。ね。て。あ。る。方。より。て。ま。あ。む。む。び。り。と。ま。り。て。引。出。し。中。の
 出。る。人。を。と。れ。ば。さ。ら。の。女。の。目。は。か。あ。ま。り。の。や。う。に。光。り。て。
 色。ハ。身。り。と。す。で。ひ。ろ。あ。り。く。上。下。の。齒。ハ。水。セ。く。杭。の。如。く。
 色。ハ。ち。か。ら。く。く。ら。が。ね。と。の。べ。ら。が。あ。り。昔。僧。伽。多。を。追

かけ来たりし羅刹女より物もかりんと思ふ。はひ
 かりの男に向ひてつ男と道を買とりてまゝやがのれ
 丹波の國の山へおひ出し持人の娘をぬかりひかけを
 賣つてきておとるをうらひて過し春のはは四條を
 三十日をかり行りて鬼とんかこころをれし者ぞのし
 我と妻と志あつて所へわて行き人見人ごに錢をけ
 あつたをりよのいとあにたりぬべし。とりひき手とりて
 ろのをひさるうほつきちぬぐ鬼くあくらえげなり。男を
 見るよりあつたをむねてさひて有るが我大君の國も
 かる物の住ていふれ。道へあつた物あればたれも
 歸りおひかんしりたけく巻ある男にくりりりてきあ

買えざる女とすて置いていんりのを頭ときし親がこの
 仰せりのおのれわてゆぬあやしのふれ女いづれあまえく
 男が手とりて外面は夜又おれども内心は菩薩をのし
 いざ人めおれ行て思ふこころをわたりし男のよと
 とりておのれが袖まといひて鷲のこころ足とりて
 おもて出て行ける梅丸のそりたる袋にめをつけてもちわけ
 ぶがなを袋にたかごころをこきてさつがれれど
 よも菌生みてはあつた。右あつたのどくら静まりて
 色ざり尋ねる人あつた思ひてこの袋おのれ買とりゆひ
 てんとりばあつた巻せる男價をわらうけ死てく袋を
 けておれしり梅丸あつた菌生みてあれし心づらま

念願^{ねんざん}あて代衣^{うしろぎ}の口^{くち}をひききしてまんを菌生^{そのふ}よハ仰^{おほ}もつらふと
 十^{じゆ}のまりて髪^{かみ}ハ白^{しろ}くの針^{はり}とあるがら老^{おい}ら
 ぬる姫^{ひめ}とぞ有^{あり}る梅丸^{うめまる}ありのことに詞^{ことば}も出^です尻^{しり}居^ゐり
 ざうと座^ざしてほきれぬら姫^{ひめ}うちあけられ顔^{かほ}りてあけて
 け君^{きみ}らうとさうしめあまのつれも親族^{おんざく}の人^{ひと}あれを日^ひとへ
 みる迎^{むか}へまはつちかへしあの時^{とき}はくらの一倍^{いちばい}とや
 ひらひまぬきんといふ梅丸^{うめまる}ハ身^みにも入れずとてあか
 たりくといひて大息^{おほいき}つきて常^{つね}人^{ひと}もあら見^みたりてあ
 がほよあつていひてがら常^{つね}人^{ひと}もあら見^みたりてあ
 袋^{ふくろ}のりともりて我^{わが}悪^{あく}人^{ひと}とて出^でる人^{ひと}といひて袋^{ふくろ}の口^{くち}
 へけんといひるよあづ出^でもやとて大^{おほ}きなる聲^{こゑ}あてけらくと

うちうひて手^てうちたれてぞのむらりをやく常^{つね}人^{ひと}よい
 きは兄^{あに}つ常^{つね}人^{ひと}やあらきて見^みれたとて過^する女^{をんな}のけ高^{たか}
 やせらるがまやとおすぞとあらうち見^みまうつ我^{わが}とて
 思^{おも}ふあやりの郡^{こほり}の大領^{おほりやう}がまもむせめをむすめあのがまも哥^{あに}は
 いまのそとほり姫^{ひめ}の流^りをよも置^{おき}るあてふをこれと
 梅^{うめ}とよこつていひてかくほとぎひあまきく時^{とき}を秋^{あき}ハうけま
 いうまらうのこつていひつ常^{つね}人^{ひと}が秋^{あき}とてこれづつ男^{おとこ}や
 とやあまら男^{おとこ}のいろくらく瘡^{かさ}瘡^{かさ}のあととてあほらう佛^{ほとけ}つる
 けうたてすばあその鼻^{はな}のう人やほしめまはしひして
 ろうがしぬてぞとてあまの常^{つね}人^{ひと}とて物^{もの}らひよ
 こそと逃^{にげ}出^でんとすまをねひひとて女^{をんな}とすま

近江縣物語卷四

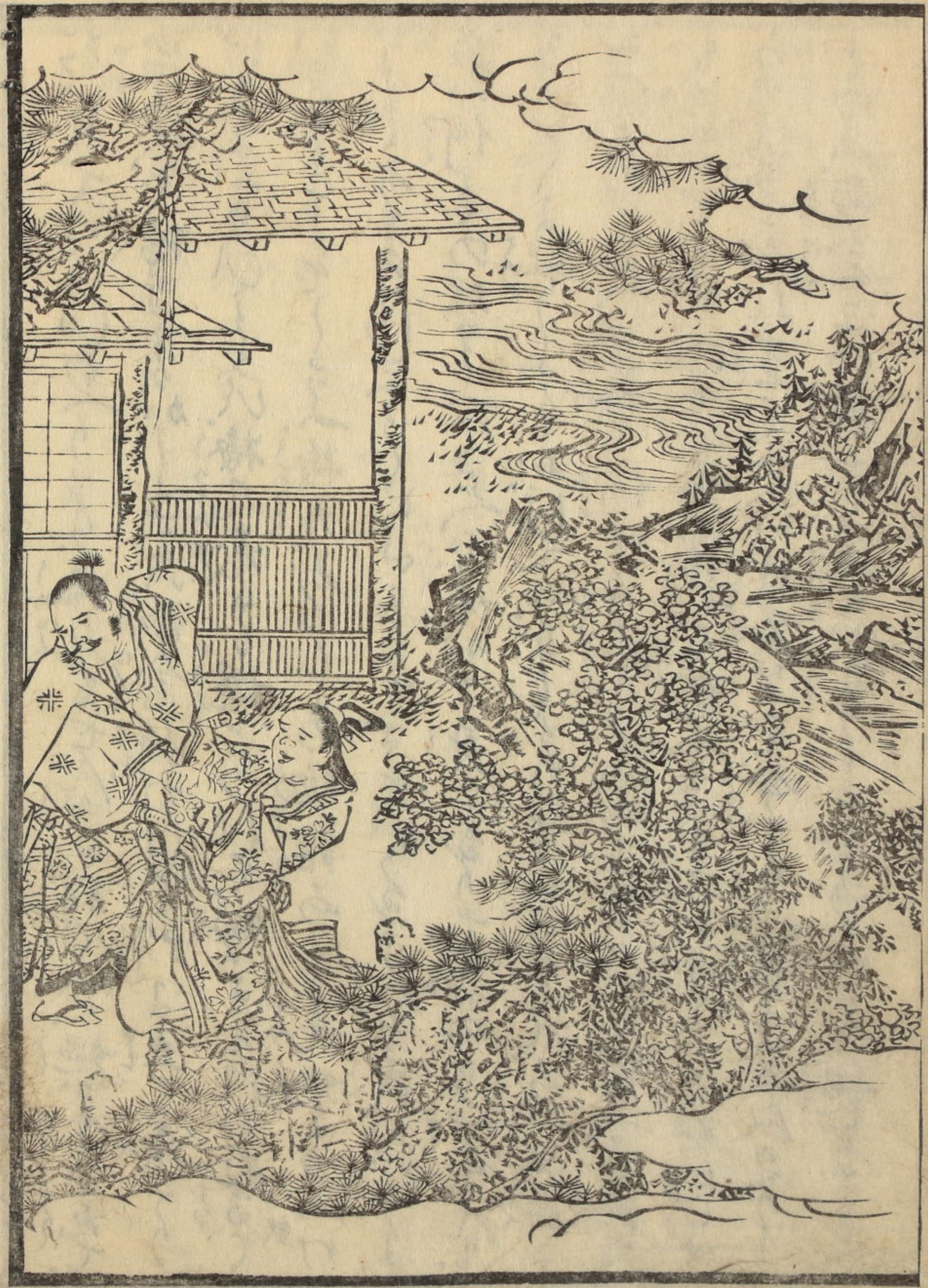
五

ゆらん者ハ頭うちかき定りせし力ヲ手せうけてひくく
常人せんさかくあづくよ女が手せうして見る見あきま
と夫しすまきやと頭うけて引りては常人ももてあつて
見くぬひ人ら繩よりちきたりて女を常人は負もせて繩
りてくくくつりつけてさハ足のひいたらんさつねとて
はきく常人の梅丸がおもはん所も袖くく面目まば
らしくとまわがれん女をやりく声うちあけていせ物語の
繪よこもかき安とばかりにハ押れくくひいたらんさ
らふり在原のあまんらふもく鼻ひきくあはれかんと
り常人ひ出る汁顔あかくりして物かひいと女が足と
はくくうちあひて出て行ありし何ぬひびくももまら

たうせつりひあたりり梅丸もせんさくして姫が手と死て
宿へを帰りりかこよ西念待つけて門よ立て居り
けよおひひも梅丸光る姫とつれて海りきたれを秘めて
いうることをとら梅丸あくの物語も先姫よけ
りいあうらちきくくいをりてさせいりる人を氏いよ
名ハ何とのたまふとて姫が身いりて名のりせせんも
なりくよ耻くくおぼくひりくすちあつたあづのあま
おひらしてゆわ氏も何とやせんあつたあづのあまは
も西念をよむのりあつて姫あつてうち案してぬひび
らが代衣よ入れ置してゆわ我名とて今より代衣よめし
とり西念こハ興あるぬ名かりとてその夜より姫とて



近江路勿吾卷四



近江路勿吾卷四

七

代衣ゆわ君きみとてとをびらる。かづりそめになびつける名なの後のちと
 世よ中ちゆう又またおしりりて老女らうにょとあがて御袋おんふくろと呼よあくるは
 け時ときを始はじめりりりその夜よいぢやすして取とりあけて梅丸うめまる
 ひそくよ西念さいねんよ云いひるかろ不用ふようの姫ひめとつれ集ありていよ
 ともせんさねし但たがしそ人のころちき者ものハねびとま欺おそれ
 しとちうだちて怒いかりて此この姫ひめがそのくまうりてち罵ののさい
 せむさぶもすえりり。それいとおやうもことと欺おそきあふハ
 ねびとがたをきめて姫ひめが身みよあづくる事ことにあつねびとを
 解かつれと怒いかむまやださしかの姫ひめいそ年老ねんじやうてあねハ奴やつ
 婢ひめのぶとけりらんもんくろしうせましとくむ西念さいねん
 かろ旅たびの空そらめて老らう姫ひめ一人ひとりかづきめんして使つかふくハいよ。

縫物ぬいもの洗物せんものをどあつ六むせんよ一いち段だんのこしにくハ當あたり置おき
 多おほひて然しかるべくやとし梅丸うめまるささび思おもひあづりて云いひるハ
 我わが親おやしこのころ左衛門ざゑもん屋やハ今いまや兼夫史しめておらしあせは
 此この姫ひめとまのせせて世よをむづくとかり奉ほうらん思おもはるかの
 姫ひめとハおあつしおらしあせを老人らうじんの思おもはるごとくも
 ありやんしりも西念さいねんのつてかの姫ひめ老らうるとりとらち
 けけハ婚姻こんいんりきたる事ことをど物語ものがたり志しあつて俄はなかること也
 うるひる事こともゆくとし梅丸うめまるささか先ま左衛門ざゑもん屋やの
 ぬくハいつして姫ひめまかして見みんとて姫ひめをちうづらして
 けハ身み年ねんかけぬ人ひとかろと若輩わかしやうあつらわらうがあけは
 呼よべん事こと心こころづらし身みハいうよおほすあやとりハ姫ひめをど

この娘、姫はんのゆえに、けしやぶづへは、つらつらつりて、飯をも
 かき、氷をもくき、下女におぼして、つらさをいふよ。
 梅丸頭よりて、我より、さきだ、おの、一倍、やあり
 多う、親子といひても、おけさう、おの、知事、時、母
 別、たの、ま、お、人も、け、今、身、を
 仰ぎて、我、母、人、と、お、つ、之、奉、人、と、思、い、は、い、ゆ、い、ひ
 らん、や、と、い、く、を、姫、敬、馬、きた、顔、よ、を、と、く、て、手、と、あ、せ
 くら、でも、あ、ひ、け、ぬ、事、を、の、よ、物、か、と、て、泪、と、な、が、し、梅、丸
 六、れ、ご、よ、あ、び、今、より、母、人、と、思、ふ、人、と、手、を
 とり、て、坐、を、譲、り、頭、を、う、けて、禮、を、お、し、る、が、姫、あ、か、さ
 ぶ、け、お、や、い、と、と、さ、む、と、梅、丸、ら、が、一、婦、で、た、す、姫

心、お、ひ、ひ、ら、あ、の、あ、に、か、く、ま、け、あ、人、を、お、さ、し、け、き
 そ、も、い、ら、あ、つ、ご、して、此、人、の、恩、よ、む、ら、し、思、ひ、め、り、る、が
 ふ、と、ら、あ、つ、き、ら、六、我、盗、人、の、り、し、ま、さ、を、れ、と、わ、り、時、を、ら
 や、ま、ひ、つ、ら、お、れ、ら、門、く、人、の、つ、り、か、れ、と、り、あ、て、人
 乃、妻、し、か、し、お、を、脚、恩、と、し、く、ゆ、ま、だ、り、ぬ、く、や、と、思、ひ
 て、梅、丸、よ、む、ら、ひ、て、け、君、ハ、お、妻、り、を、あ、や、と、ま、を、梅、丸
 い、り、ご、定、ま、し、ら、す、が、か、し、い、ら、姫、さ、ら、か、し、い、ら、が
 美人、の、い、ご、ね、よ、く、わ、て、来、り、あ、ひ、て、お、妻、と、か、し、ま、せ、の、え
 や、ん、と、い、ふ、梅、丸、も、美人、い、つ、ら、休、し、ま、を、姫、此、美人、さ
 ち、計、は、い、を、び、ら、あ、ざ、し、も、う、あ、り、か、し、を、此、や、ま、と、の、え
 又、さ、り、と、れ、き、烈、女、あ、て、お、を、ひ、く、や、す、川、は、行、り、ひ、て

あがひひてありの人。明日はいづらば人を人の手に入ん。
其時くゆもひかへんといふ。梅丸ねまひもいづら
を仕てさえさへいづら。守りしといふ。いづらも
語り多し。しを姫事にあははる。清りておひ人。
あてかの美人とねん。あまか。ひ。成りて梅丸。
まりのい。ひ。あ。の。人。あ。の。も。袋。の。中。は。こ。め。あ。れ。い。づ。れ
と具人。と。い。て。買。と。ん。又。も。あ。ま。り。て。と。人。さ。だ。づ。え
来。る。人。づ。ら。の。事。あ。ん。し。を。姫。と。れ。又。も。同。ぢ。い。
うの美人。常に尺をり。ある物。と。大事。と。い。て。腰。の。あ。り
よ。さ。い。て。お。え。せ。ば。く。ち。づ。り。て。見。あ。り。ん。は。お。の。づ。ら。得。る。と。
ゆ。ら。ど。と。い。ふ。梅丸。驚。て。何。と。の。さ。ま。が。の。女。ハ。腰。は。人。斗。の

物。と。い。て。さ。り。と。や。ら。し。を。我。心。も。思。ひ。あ。る。事。少。バ。
た。は。さ。り。や。せ。川。一。行。て。買。と。り。て。中。か。り。ん。と。せ。き。ら
さ。ぬ。西。念。お。の。れ。も。供。侍。り。て。ん。お。ろ。こ。を。よ。ひ。ね。い。
待。り。し。も。い。づ。ら。さ。り。さ。り。さ。す。ひ。ま。か。げ。や。す。い。を
う。い。て。い。さ。ら。ら。し。て。う。い。ま。至。り。て。釘。ぬ。き。の。外。有。
西。念。と。ま。る。せ。置。梅丸。ひ。り。入。て。見。と。バ。旅。人。二。人。を。ひ
か。て。女。と。う。ち。ん。と。い。さ。ね。ひ。び。ら。ひ。ら。の。袋。を。荷。ま。ひ
出。て。あ。ら。の。の。ら。り。は。く。つ。づ。ら。は。さ。此。袋。さ。ひ。ら。り。あり。
ま。ら。た。三。人。の。買。人。あ。り。け。袋。ら。ま。り。て。う。う。ま。し。や。し
ひ。ひ。て。づ。ら。を。一。人。の。男。す。と。出。て。お。の。れ。最。初。は。門。と。入
り。お。の。れ。は。賣。り。し。ひ。え。ん。と。い。ふ。今。い。ら。の。男。お。の。れ。

十貫文よからんとあつたがのれと十五貫文よからればあの
れは賣くや多くといふ梅丸くくのあつたを見つけてくれそ
買つてくれといひたれど先くくからえんそ袋のうらあは
いりてさぞりたれが姫のひりたがをび腰は物をさうて
とれをうれあつてさぞりたれ此袋は人をよかをせどあの
二十貫文よからんとあつた手をするが盗人うら
見まつてかいらたれ三人の買物ありてあつた物
とつたありつづきよ賣つてよからんとといふを三人ともあつた
とつてさぞ我は賣つてさくといふが梅丸くくといひてあつた
一人のぬいびとがいらたれひけて袋は人をよかをせど十貫文よ
からんと今さうつので錢をさくたる者よらんもいふ

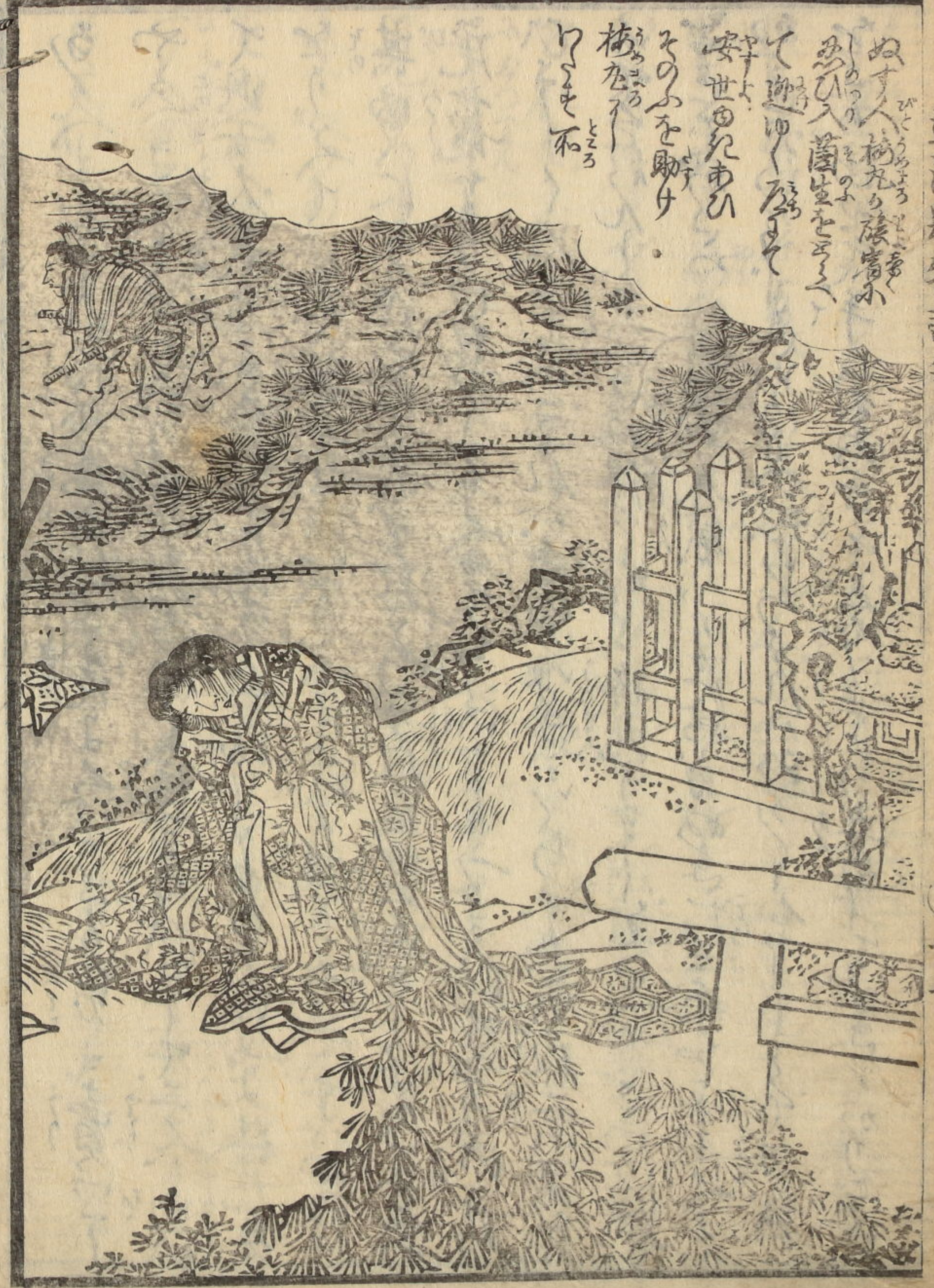
あつた。さうかくよ本戸を先よからんとする男は賣つて
やぶささといふのが男のあつて袋はさびて二人は向ひ
て此女人我手は入ぬさうさうやあつたといふ。梅丸身
とりさうていふで汝はさびさき。我は譲りあつたがあのれ
其のあつたにらんやいさでせれたあつたを盗人もあつた
尾籠やうりたれくさくさくもあつた。梅丸はさうさういふ
ひさく人をさうさうたれが手のうらさうあつた。あのれ二つはな
あつたらん。かひさぬたか。梅丸はさうさうのべてさうさう
さうさうか。うらの盗人感づるにや。かぬさうたう手さうさう
か。さうさうさうさうのさうさうハねさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

近江原物吾家



ぬす人 梅丸の娘 安世
あつひ入 園生をさへ
て 遊ゆく 庭ま
安世 由たあひ
そのあを 助け
梅丸を
りて 和

近江原物吾家



かりひをとり。汝ら何れも事なれ。かゝる時ひこせら。かゝ
 負ひきていふ。さう。汝ら何れも事なれ。かゝる時ひこせら。かゝ
 いうかりのわきま。さう。汝ら何れも事なれ。かゝる時ひこせら。かゝ
 つらりたれ。外より内へ。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝ
 外へ。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝ
 女も。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝ
 此女をつれて。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝ
 と三人とも。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝ
 乃中。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝ
 よか。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝ
 あげ。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝる時ひこせら。かゝ

い。聲。わ。や。え。ん。人。を。あ。げ。て。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ
 之。り。と。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ
 袋。を。あ。げ。て。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ
 紙。を。あ。げ。て。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ
 せ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ
 送。り。行。く。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ
 小。さ。い。な。い。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ
 け。の。事。な。れ。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ。う。い。ふ。袋。の。う。ち。へ。り。や。さ

近江縣志

近江縣志

の山ぐちのわりや兒中のけだりき姫六門乃外まぢ
はけおるに西念があきほひてかけあつて見ていふや
ともひ来さるやとさき西念をあげてよめの君やぞ
かきひりたりと姫あがりていふやおまひひりてや
たつはとまどいなるものにておまひひりてかきよ
ふきいづてけりひあり。秘もや梅丸代衣とあまをそ入来
てまづ二人の士年しねんに錢とせて返しやりてとくはかのみ
うちひききておるやあつびや見んとてむしびりよ手紙
かけてとんとするにあやあつむしびりよけぞんせけを
代衣のまより来ていふは代衣の中よあつてゆひ人出候を
近江國神崎里なる安世ぶのいむするやとそ人は

代衣の中よりあつてのさきふあつ。梅丸の君よてあまやとそ
声こゑあつてたぐふもあつねを手の舞足のうきとそ
えび西念よりてむしびりよとまきとちて代衣とひけり
まらび出く梅丸が袖とそくうけり。泣は泣あつむ梅丸も
がよやおまひの首くびかきつるの尋ねをぞ有とそあまも
あつてとそあつていふとそ顔うち見くいふたおまひ
けりあつてたやゆひよなやとそあつてを園生かたにつけても
あつて来るきこづきとそあつてつがとそあつて姫とらけておとらま
いふとそあつてはつとそあつてあつてとそあつて姫とらけていふとそあつて
あつてよらたよあつていふとそあつて思ひあつてあつてあつて
すもすくせの縁とそあつていふとそあつてあつてあつてあつてあつて

ありしは、何ぞも君よいざどりて見参入るるを、おれをいふで
 かねくあくるまひのまよふとて、菌生梅丸をゆびさし、
 けきにかゝるに物語あてつけり。夫とすつるは、果てあて
 ましし、人を姫とすらて、われはあもかく、あ人を語り出たり
 けれを、あつくりよは、よの繁りか、うらむら、あつくりよは、よの繁り
 と、我を母とす、あまの事、のふれ、あまのむすひせん、あま
 おりとの節、我とむむ、あまのむすひせん、あまのむすひ
 ー、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 かくあまの夫君よ、めづりあひ、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 神佛の感、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 と語り、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、

ふも、姑の君あて、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 して、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 して、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 くのあまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 夫婦の人、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 まげて、拜り、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 まり、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 にあて、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 ひ、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、
 姫菌生が、賊營ありて、巴豆を用ひて、病婦とす、あまのむすひせん、
 やい、あまのむすひせん、あまのむすひせん、あまのむすひせん、

近江系物言書

一五

父君いづくはかそしとを菌生するけにまぎれて
 多ひつれをぬゆくのありまわすせびだれどあべおれど伊
 賀の國あやすませまらんあが君とく父君よ尋ねあひひ
 てぬひびとたにひきぎをさびりとの家は帰りのひ父のおと
 つがせまかしくを梅丸いかに別は又したのまはる人あり
 むうこの家と継ぐれを安世との家お讀せんといひいもさび
 といふまじきとゆき姫とと泣出していまがひやれは我身よそ
 何れかくぶぬ又老ゆくま子とりよのあはれをたは夫とが
 うひくさるべき人を養子とせしむべきを教もつせむわとあひ
 けりけ養子のことにて置てぬひびとのまは家をも財をも
 おしきまらむとつとつことと成てぶら成てく又とび

子兒さき身よそをけ君たち夫婦よりあひて語りまはさく
 みも何をれやる身ハおまじとあはれやれうちゆきてさうりもふと
 びけを梅丸いさめて某かくてゆいハ子やとれ思ひひを遠
 かびては親族の人くみもあをせまのすべとつらづ
 おほいんよるにとも今ハ名のり人とりだ姫あつく昔語り
 せんもんぢがやうくを又とついであをすまらだも
 申せどく氏もやれ田夫の妻やるとおぼせかしくり
 子細くあはれとてあながちあも同をびあてやまぬその夜姫ひ
 くのハり吉日やんハ婚姻のさうづもあまといを梅丸く
 うちありて此事いさく又あをせまはれはく
 べうびとて対面せ別を奉り一人のやうありあひく

上二系物語

一五

いくぐくの月もたぐはしはるる正の思ひもよりゆづ。菌生
 どのど何がめひ嘗くハ師ある人の恩よむくゆを免れ我情
 慾のらちあそひゆをすしりす。人々まじく感入ぬえ。地
 菌生とひよりあまふ。免梅丸西念ハ屏風をそく臥。扇
 かくりよハ弥生の末ありりもけ。家ハまがしき山ぐらのすま
 あり主ハ京より一用ありとて梅丸よ何とを預てあか
 りまふよう。あま行ぐれば外ハ人もあし。かき草ぶきのあれら
 宿かぐ。夜あけぬれば春とて鶯の庭よまきてをむや
 ーかきりり。人ハはびらのつれよ。らどそれぞ。何さいあ
 起も出ず。菌生ハうれ。このあまりにえねもや。でありられを。
 しく起てやりと。ぬてあまきの柱よ。脊なりか。つ。あれる庭ち

まがえく。竹ちり。く。と。ねハ。か。ら。ち。ず。き。わ。る。に。敷
 垣のちうりとしれをねぐ。をぬ。鳥あやと思ひて。えや。ら。ら。
 ー。ち。い。か。く。て。あ。や。ま。れ。男。は。頬。づ。り。あ。る。が。敷。わ。ー。け。け。は。
 入来て物をいはず。菌生と抱きてゆんとい。菌生を声をあけて。
 ぬひびとをあれ。あ。り。く。と。さ。け。へ。人。々。驚。き。起。の。で。見。え。る。ら。
 盗人菌生と。こ。つ。ま。に。を。ま。て。走。る。西。念。あ。う。ま。び。の。す。に。く。追。外
 て。あ。す。び。の。腰。よ。手。を。う。け。て。や。ど。と。引。と。あ。ぬ。す。び。と。足。を。あ
 け。く。げ。ど。蹴。れ。ば。さ。り。あ。り。て。様。さ。ぬ。倒。れ。ぬ。梅。丸
 カ。と。り。て。追。う。け。一。町。あ。ま。り。お。れ。ぬ。菌。生。を。う。け。り。あ。ぬ。す。び。
 乃。と。り。て。行。く。と。ま。け。ぬ。く。と。ま。ぬ。す。び。の。飛。び。汁。よ。走。り。ゆ。は。
 追。つ。く。ぎ。も。あ。ら。び。危。き。と。し。を。け。し。か。ま。向。ひ。あ。る。方。より。

近江県志言卷四

うのまろせつ
 梅丸蘭をせ
 めすくは奪えん
 くのち安世母あひ
 てそりしれれ光
 のりとく同なる不

行工原物古楽口



近江県中津藩口



わらうききて、ちよもけいされ、まも着る侍のどくし何ゆみ
 来りつづつとくしうりて、盗人が項、いはうてうこがさげぬす人ら
 きたる蘭生をすて、うり返りて、おきうちになんか、侍に
 りて、胸のあをを突か、しをにぢあき、あはひて倒しぬやがて、
 巻る緒縄とりて、ひきこり、梅丸、西念もあひく、うけ取りて、
 いら、妻ととり、返つて、手とつ、頭をさげて、うらえむかの侍に
 女ハげとの妻よてあ、とり、さあて、ひき、まの、賊營より、あが、ひ
 えて、はき、うりて、い、い、侍扇のありして、何、さりて、あ、け、め
 うち見、う、や、と、二、梅丸、あ、い、お、え、ま、び、や、と、い、い、う、あ、人、ど、と、
 さ、く、く、久、く、て、逢、ま、の、せ、と、い、ひ、つ、あ、ま、ま、と、り、た、る、教、と、ま、
 師とよ、したる、橋の、安世、り、り、梅丸、地、い、い、あ、し、て、ま、ま、ま、ま、

詞もひつとて、か、こ、こ、蘭生ハ、父君、あ、つ、て、せ、ま、ま、ま、
 こそ、そ、そ、り、つ、ま、さ、り、く、安世も、涙と、ひ、あ、う、けて、蘭生が、手、
 ころて、あ、ま、ま、ま、ま、ひ、て、物、い、い、び、さ、る、に、て、も、か、く、も、賊、營、ま、の、か、
 色、あ、く、梅丸、よ、め、ぐ、り、あ、ひ、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、梅丸、盗人、と、い、う、そ、ん、と、て、顔、を、見、ま、ま、ま、ま、ま、
 川、あ、ま、ま、ま、ま、旅人、り、り、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 あ、ま、ま、宿、り、も、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 安世、ぬ、び、び、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ん、と、い、せ、つ、ま、ま、語、い、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 かけて、せ、む、れ、ぬ、び、び、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 常に、む、ち、を、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

八よかゝつてきてまのふやすりよ至りて彼女人買とらんといひ
 せしに。とたぐひてゆをひそりよ跡まつき追行て奪ひ来れど人
 どの安川よ恐びのて下知せしめてゆをぶらり。け敷地の中
 隠れぬて思しり安世又問るハ常人ハ何とて神話ハ陽り
 住てるをとりむらんハ叔父の人のたぐさからしかり財
 ともとどぐく振ひて同意よすまひて今ハ左右ヤ兒長者
 こせしめていしり安世梅丸よ向ひて常人ハいりあして我ら
 め置つる所とありしより。つゆえぬ事あり。そののまらびり
 伊賀の國を我がくまごよ入身りて皮籠ひとりぬけて出行り
 そのうちよ重代つきたる大切り鎧一領ありき。たぐさもは
 ぞしむにたぐさ此鎧のいそりてとんと思ふなり。かやつ

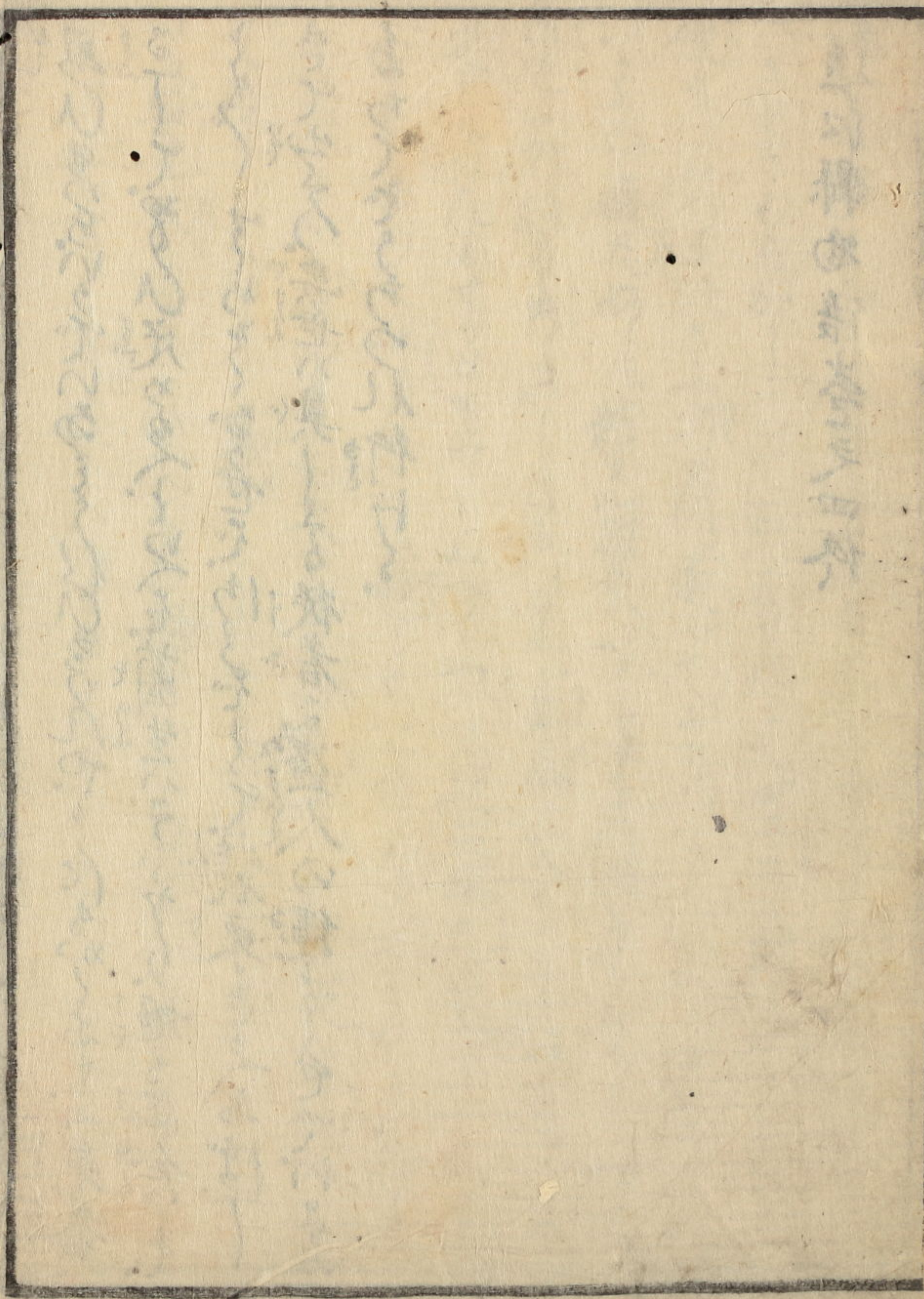
さるぐの悪行せし。今日娘蘭生とて奪ひとらんせし
 言語またる悪人返ひく不當のやつし。今よ思ひ
 せんがとて又盗人よ向ひておのまけす。放ちかへし。此ハ常人
 よ告あしせん疑か。し。ば。つ。逃かくれんもあぶら。ば。い。ま
 よりて。あ。おのれと。つ。あ。お。く。と。て。庭。の。樹。よ。り。置。て。
 又四方山の物色あつたり。安世ありて。あ。手。を。つ。ま。ま。
 云。る。ハ。あ。り。の。見。し。お。ひ。ま。お。と。て。あ。尋。ね。り。の。あ。れ
 がる門よ。あ。の。ま。の。え。て。ゆ。を。あ。し。り。て。ゆ。あり。あ。せ。ま。
 が。と。く。頼。光。朝。臣。に。い。り。石。山。よ。こ。り。て。お。ら。し。ま。は。と。く。出。
 たり。せ。ま。ひ。あ。ん。と。申。す。安。世。よ。ね。て。梅。丸。よ。む。ひ。て。お。の。れ。頼。光。朝。
 臣。と。い。や。く。り。文。學。の。う。ま。い。師。の。あ。や。う。の。り。て。あ。て。く

あぐらひひてあり。まのよ石山いしやまよまうでよりなるに。おのれはかまふ
 べき事ことありが。こゝろ對面たいめん見んとて四五日いごにちたれ。我わがくまかこ
 使つかまつりつゞき。出いで門道かどまであり。ひうらびんくま。出いでひぬ
 いうらや梅丸うめまるあ。輕亮けいりやう頼房たのぼう少せうころ。武將ぶしやうまでおら。内うちす。
 内うち迎むかひのれと共ともまか。こゝろ見けん泰たい入いる。見けん泰たい入いる。見けん泰たい入いる。見けん泰たい入いる。
 進しんぶる。ん。すが。ごも。なり。ぬ。べ。く。や。と。い。を。梅丸うめまるあ。ら。う。ち。業わざ
 ぐ。く。ま。づ。く。侍さむらいん。こ。の。親おやと。の。つ。る。人ひと。告つげま。ぬ。く。せ。び。で
 る。び。ん。き。く。い。但た押おり。ふ。前まへへ。見けん泰たい入い奉ほうり。て。賊徒そくど誅しゆ伐ばつの。味あじ
 支度しどなど。く。い。く。承うけり。と。存ぞん之しを。出い供くわ侍さむらいり。て。奉ほうり。り。め。ん。と
 い。安世やすよ大だいよ。ら。こ。び。て。そ。の。親おやと。の。ま。い。人ひとも。今いま世よを。す。そ
 か。れ。住すまり。と。承うけれ。ば。そ。の。の。り。り。で。あ。ん。と。を。う。ら。こ。ば。く。こ。を。

思おもひ。の。ら。い。り。で。い。あ。ら。う。い。ひ。の。ら。ん。や。と。た。も。か。く。見けん泰たい入いる。
 る。こ。の。親おやと。の。ま。い。人ひとも。今いま世よを。す。そ。か。れ。住すまり。と。承うけれ。ば。そ。の。の。り。り。で。あ。ん。と。を。う。ら。こ。ば。く。こ。を。
 と。も。ぐ。す。め。そ。く。か。を。を。あ。ら。う。と。て。装束しやうそくき。く。あ。ぼ。り。
 きて。出いで。安世やすよハ。具ぐ。一いっ。の。従者じゆしや。盗人たうじんの。繩なわ。と。を。て。い。さ。み
 ち。ち。て。ぞ。う。ち。の。れ。行ゆけ。

近江縣物語卷之四終

江州府志卷之四



通新石所

江州府志

江州府志

江州府志

地籍

通氣石町